

20010

心房細動アブレーション術前訪問の取り組み

【目的】当院は昨年の総カテーテル件数7514例であり従来は業務多忙により術前訪問を行わずにいた。術前訪問に関しては以前から個別性のある看護を実践できるように取り組むべき業務と考えていた。心房細動のアブレーションは長時間の安静、術準備に患者協力が他の手技に比べて多いため、まず心房細動アブレーションの術前訪問から取り組むこととなった。**【方法】**説明媒体はパンフレットにした。カテ室看護師へのアンケートを実施した。関連する病棟看護師へアブレーションを行った患者の反応などをアンケート調査した。パンフレット作成は患者への指導に入る前に、カテ室看護師で評価修正を重ねた。病棟のケア・処置が多いため事前に関連病棟へ説明会を開催し運用を取り決めた。カテ室看護師もすべての看護師が患者に同じように説明を行い運用できるよう説明を行った。パンフレットは医師に最終確認を行った。**【結果】**開始2週間程度は、訪問用紙自体の書式により情報が取りづらいという声があがった為、以降は評価・修正を重ねて訪問用紙をより具体化する記載とした。患者に事前に会うことで、体位の工夫や術中も説明がスムーズになった。また、病棟看護師と接触が多くなり連携がとりやすくなった。**【結論】**事前に説明を行うことにより患者への安心感につながる。また副効果として、病棟カテ室間の協同した看護につながる。今後の課題は訪問症例の拡大につなげより一層個別性ある看護の展開を目指す。